

児童・生徒の現状・課題

- ・間違いや失敗を恐れたり、傷つきやすかったりする児童が多い。すすんで発言することができる児童に偏りがある。
- ・理解力に個人差が大きい。

学び続ける力を育むための重点目標

- 自分の考えをもち、自ら学習を進める経験を積むことによって、前向きに学習に取り組むことができるようにする。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	82.0	85.0	80.1
②間違えたり失敗したりしたとき、前向きに捉え、次に生かそうとしている。	82.8	85.0	79.1

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	80.0	80.0	73.9
②問題や課題に取り組んでも上手にいかないときには、どうすればよいか、児童が自ら方法を選択し行動できるよう、解決の方法を示している。	95.0	95.0	95.7

具体的な手だて①

学習内容や学習計画を単元の初めに示すことで、学習の見通しをもつことができるようにする。

具体的な手だて②

学習課題や学習過程等、児童が選択し、決定する場面を設定することで、自己理解を深めるとともに、自らの力で学習を進めていくことができるようにする。

具体的な手だて③

授業後や単元の終末などに、めあてに対する振り返りを行うことで、自らの理解度や学習に取り組む姿勢を見直す習慣を身に付けられるようにする。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・OJT を活用し、若手教員が、他の教員の日々の実践を知る機会を作るようにする。
- ・作成した教材等を共有することで、学校全体の授業力向上を目指す。

総括(5月)

間違いを恐れて、発言を躊躇してしまう児童が多いのは、授業において一問一答的な内容が多く、児童自身が自ら学び方を選択しながら学ばせる場面が少ないことに課題があるのではないかと教員から意見が出た。そこで、「学びを導く授業」という点に着目し、日常の授業において児童が学び方を選択できる場面を設定すること、そのための教材研究を行い、教員が準備する時間を設けていくことを授業改革の中心に据えた。

今後、発達の段階に応じて、「自由進度学習」を取り入れることを視野に入れて、指導計画の見直しや、具体的な授業の進め方などの準備を進めていく必要があると確認した。

総括(1月)

「学び続ける力」に関する授業改革推進研修を経て、教員の授業の進め方に対する視野は広がった。また、児童の学びが上手にいかないときの指導についても、教員の意識は維持できている。

一方で課題としては、次の2点が挙げられる。①教員は、実際の授業の中で、児童自身が学び方を選択しながら学習を進める場면을効果的に設定できていない。②これまでの指導が、「間違いや失敗を前向きに捉え、次に生かそうとする」という児童の意識には現れていない。

これらの結果を踏まえて、教員の授業力向上を推進するとともに、児童が学びを選択できる場面を多く設定できるよう、引き続き教材研究の時間を確保すること、授業の質を上げることが必要である。